

急性好酸球性肺炎

英語名 : acute eosinophilic pneumonia

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ずおこるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

薬の服用により、肺に好酸球こうさんきゅうという細胞が集まって炎症を起こす「急性好酸球性肺炎」きゅうせいこうさんきゅうせいはいえんが引き起こされる場合があります。
抗不整脈薬こうふせいみやくやく、抗がん薬、降圧薬、抗リウマチ薬、造影剤ぞうえいざい、抗てんかん薬などさまざまな医薬品で起こり得ますので、医薬品の服用・注射後、数日から1週間で、以下のような症状がみられた場合は、速やかに医師を受診してください。

「せきから咳」、いきぎ「階段を上ったり・少し無理をすると息切れがする・いきぐる息苦しくなる」、「発熱」など

1. 急性好酸球性肺炎とは？

肺炎は肺に炎症がおこる病気ですが、急性好酸球性肺炎では、肺の炎症部位に好酸球という細胞が集まってくるのが特徴です。急性好酸球性肺炎は、急性の息切れ・呼吸困難、乾性咳（から咳）、発熱で発症します。両肺に炎症を起こし急性呼吸不全を伴うことが多いのですが、薬剤を中止し、副腎皮質ステロイドの使用で、軽快するのが一般的です。薬剤以外の原因として、喫煙開始後に発症する症例が多く報告されています。これまで、アミオダロン（抗不整脈薬）、ブレオマイシン*（抗がん薬）、カプトプリル（降圧薬）、金製剤*（抗リウマチ薬）、造影剤*、メトトレキサート*（抗がん薬、抗リウマチ薬）、フェニトイン（抗てんかん薬）などで報告されています（*は注射剤です）が、これ以外にも多くの薬で報告されているので注意が必要です。

2. 早期発見と早期対応のポイント

薬剤性の急性好酸球性肺炎は例数が少なく、起こしやすい患者さんの背景や危険因子などよくわかっていません。

医薬品の服用・注射後、数日から1週間以内に、「から咳」、「階段を上ったり・少し無理をすると息切れがする・息苦しくなる」、「発熱」などがみられた場合は、すみやかに受診してください。通常エックス線やCT検査で早期発見が可能です。

受診する際には、使用した医薬品の種類、使用后どのくらい経っているのか、息切れ・呼吸困難の程度などとともに担当医師にお知らせください。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの「添付文書情報」から検索することができます。[\(http://www.info.pmda.go.jp/\)](http://www.info.pmda.go.jp/)

また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています。[\(http://www.pmda.go.jp/\)](http://www.pmda.go.jp/)